

新任社外取締役メッセージ

Message

「メーカーとしての夢」の実現に貢献していきたい

私は、東ソー株式会社に入社後、経理を振り出しに、営業、労働組合の専従、購買、オランダ駐在、そして日本に戻って事業部に配属され、そして事業部長、取締役と事務関係の部署はほとんど経験してきました。

4、5年ごと、慣れてきたと感じる頃に異動があって、また新入社員のように新たな業務に就くことを繰り返すうちに、何事もチャレンジと捉え、その先を読んで将来を形づくることにやりがいを感じるようになりました。

2016年から丸6年、社長を務めました。全従業員の生活がかかっているとの思いから、私が入社した1979年には、当時の売上高に匹敵するほどあった借入金を返済し、無借金経営を達成しました。

実際のマネジメントでは、自由闊達な会社をめざし、切磋琢磨、チャレンジなどを大切に、風通しの良い雰囲気をつくるよう努めてきました。

日立建機は、これからも社会に寄り添ってさまざま

な要請に応じていくために、自らを変えていかなければなりません。企業価値を向上させながら、さまざまな社会課題に取り組んでいくというバランスが何よりも重要です。一つだけ良ければ良いのではなく、まんべんなく、バランスが取れるような形にしていくべきだと考えています。

メーカーにはメーカーとしての夢があって、それを実現するために努力されています。取締役会にはさまざまな専門的な知見を持つ方が揃っていますが、私は同じメーカーで経験してきた知見を活かし、その夢の実現に貢献していきたいと考えています。

長い間、日本企業経営者として携わってきましたが、現在の日立建機は、外部から、株主の構成が複雑になっているように見えるところがあるかも知れません。今後、取締役として皆さんともしっかりと議論して、さらにより良いガバナンスへと貢献できればと思っています。



社外取締役

山本 寿宣

(やまもと としのり)

Profile

1979年、東ソー株式会社入社。同社常務取締役 クロル・アルカリセクター長兼石油化学セクター長、同社常務取締役 クロル・アルカリセクター長兼中国総代表、東ソー株式会社代表取締役社長、相談役、特別顧問（現任）などを経て、2023年6月より当社社外取締役。

日立建機グループには、大きなチャンスがある

Message

日立建機には、非常に大きなチャンスがあると確信しています。世界中の誰もが日立ブランドを知っており、本当に良い製品をつくり、循環型経済や脱炭素にも真面目に取り組んでいます。そして、単にモノをつくるだけでなく、お客さま、そして経済の持続可能なライフサイクルに貢献できる事業を展開しています。

このような伸びしろのある企業の経営に参画できることは、私にとっても非常に良いチャンスです。大変光榮に思っており、非常にワクワクしています。

私は、家族とともに13歳の時に来日し、通算37年間日本で生活してきました。仕事においては、経営コンサルティング会社を皮切りに、ITベンチャーの起業、エンターテインメント業や金融業、さらには駐日米国大使館の首席補佐官に至るまで、さまざまなキャリアを重ね、人脈を築いてきました。

例えば、営業組織に対する細かなKPIの設定や報酬

制度の見直し、グローバル展開において欠かせない地政学的なアドバイスや人脈の活用などで貢献できると考えています。

日立建機は急成長している会社なので、どこまで伸びていきたいのか、ワンチームとして社員一人ひとりが何をすれば良いのかなどゴールが分かりやすくなっていることが成長の基盤を固める第一歩です。日立建機グループがこの大きなチャンスをしっかりつかみ取れるように、私の経験を活かしていきたいと考えています。

日立建機は「第2の創業」で大きく飛躍のチャンスが到来していると思います。日本企業の中でも海外の事業比率が高い企業の代表例として、ますます資本市場からの期待も高まっていくことでしょう。これまでの経験と、外国人の独立社外取締役という役割を自覚して、しっかりと取り組んでまいります。



社外取締役

**ジョセフ
シュメルザイス**

(Joseph P. Schmelzeis, Jr.)

Profile

1984年、ペイン・アンド・カンパニー入社。アメリカン・エクスプレス・インターナショナルヴァイスプレジデント、駐日米国大使館首席補佐官、Cedarfield 合同会社職務執行者（現任）、株式会社デンソー社外取締役（現任）、一般社団法人国際高速鉄道協会理事長代理（現任）、東海旅客鉄道株式会社（JR東海）社外取締役（現任）などを経て、2023年6月より当社社外取締役。